

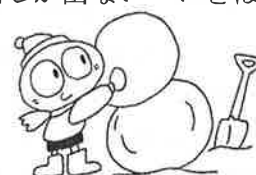
2002年1月15日

通院ボランティア通信

【いどばたNo.15】

全腎協事務局

新年あけましておめでとうございます。バックナンバーを見てみたら、年間5回しか出ない「いどばた」ですが、本年もどうぞよろしくをお願いします。



団体紹介

通院送迎支援センター「サポート室蘭」

北海道室蘭市にある「サポート室蘭」は、NPO申請をめざして準備を進め、昨年11月に仮申請書を道胆振（いぶり）支庁に提出、現在道所轄課の指導を受けながら本申請へ向け取り組んでいます。

月500回以上の送迎活動の様子とNPO申請に取り組んだ動機や方向性についてお聞きしました。

* コーディネーターから見た送迎活動

「サポート室蘭」が開設始動してから1年半が過ぎました。現在、ボランティアさん54名、利用者の皆さん39名に登録していただいています。日々の送迎もボランティアの皆さんに助けられ、事故もなく冬期間もお正月休みだけで、送迎を実施しています。

新聞やポスターなどでボランティア募集をして人数は増えているものの、利用したい会員の増加で相変わらずのボランティア不足です。

日に何回も走ってくれているボランティアさ

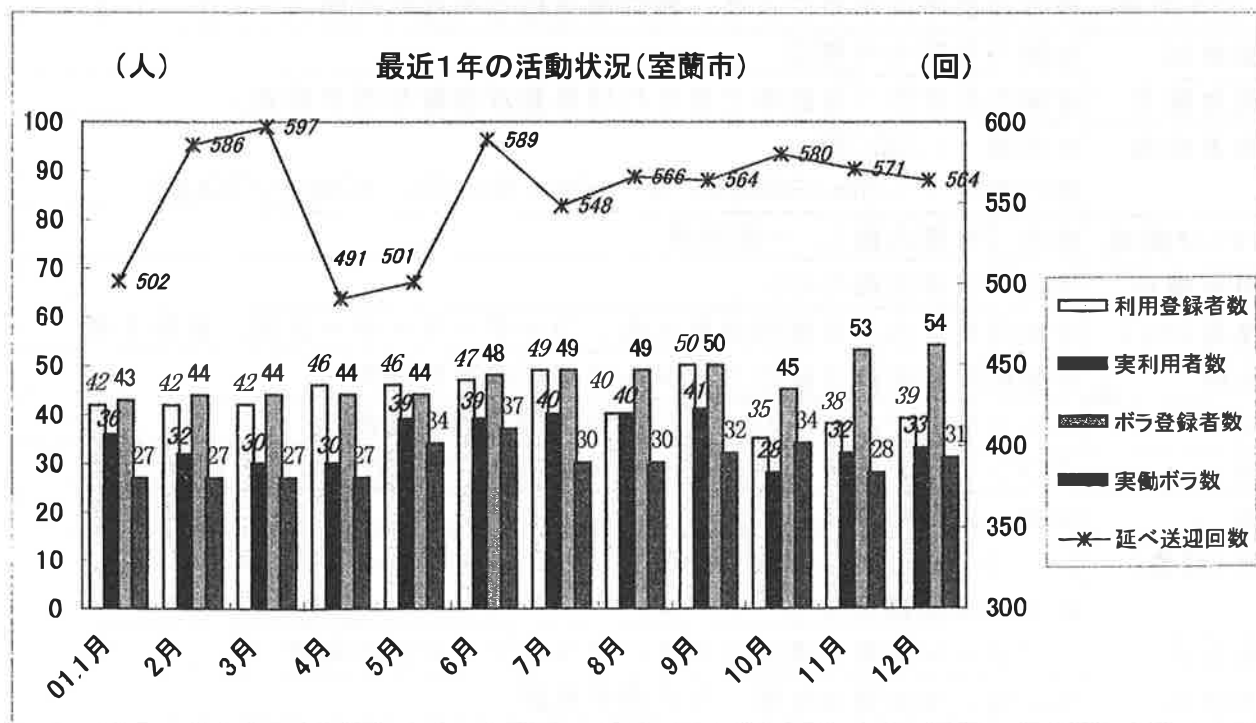
んも中にはいて、頭が下がる思いです。

私たち事務局スタッフも、そういうボランティアさんの思いを無駄にしないように頑張らなければ…、と思う今日この頃です。（福留）

* * *

コーディネーターの福留夕起子さんと打越泰子さんは、二人とも室蘭地方腎友会の会員です。室蘭は若手の会員が少なく、コーディネーターを探すのが大変でしたが、役員さんが声をかけ、スタート時に福留さん、その後打越さんが抜擢されました。

* 「サポート室蘭」の活動状況



*NPO申請に踏み切った経緯

国の財政難、景気低迷、不備の多い介護保険制度等、私たちを取巻く医療・福祉環境は年々厳しい状況になっている。先の見えない国や地方行政の施策を待っている余裕はあるのか…。

増え続ける仲間と急速に進む高齢化、今後に予想される様々な問題を想定し、その時に対応できる受皿が必要ではないだろうか。窮余の一策として開始した通院支援事業も任意団体という面から運営の継続に不安がある。

私たちは患者であり障害者であるという特異な面があり、介護保険制度を十分に利用できない。また、地域の障害者対策も不十分な中で、患者も家族も高齢化、最近では独居患者も少なくなく、通院のほかに介助、介護を含めた生活支援も考えておかなければならない。早めの備えが重要である。

* * *

こうした状況に備えるには、地に足の着いた安定した事業運営が要求されます。私たちは事業の継続を第一に考え、私たち弱者でも可能な活動組織作りを模索する中で、市民ボランティ

アを含めたNPO組織作りを考えました。

これからの方向性として、この活動が地域のボランティア活動を活発化し推進する一歩となり、それが地域福祉社会を支える活動組織として発展するように貢献できればと願っています。
(会長：佐藤利國)

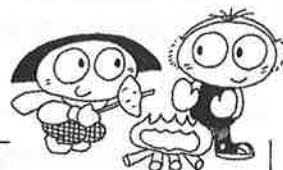
*雪が少ないから冬でも送迎

室蘭ではあまり雪は積もりません。今年も雨が降るほどで、道が凍結するほうが心配です。

坂の上に住んでいる患者さんについては、ボランティアさんに「行けるところまで車で行き、そこまでは何とか出てきてもらうように」お願いしています。車はスタッドレスタイヤです。

冬季に活動を続けるかどうかはボランティアさんの判断に任せていますが、休む人は数人です。毎月少しずつボランティアが増えているので、大きな支障はありません。

新聞やポスターを見て申込んでくる人が多いので、コーディネーターはあちこちで積極的に宣伝・募集しています。



*「サポート室蘭」のしくみ

所在地	北海道室蘭市
実施団体名	通院送迎支援センター「サポート室蘭」
運営母体	室蘭地方腎友会
発足時期	2000年6月発足
サービス内容	患者及び市民ボラによる、要介護透析者の通院支援（ドア・ツー・ドア）
送迎地域	室蘭市及びその周辺
利用対象者	室蘭市在住の「自動車でなければ移動が困難な透析患者」
利用者負担	年会費：1,000円 運行寄付：～5km/300円、5～10km/500円、10km～/700円
ボランティア構成	患者（患者会員）、一般市民
利用者構成	患者（患者会員のみ）
事務局スタッフ	事務局長1名、事務局次長1名、コーディネーター2名、会計1名
事務所	室蘭市障害者福祉総合センター（腎友会事務局内）
車両	ボランティアのマイカー及び所有車両（現在0台）
保険	ボランティア保険（移送サービス含む）、マイカーの任意保険
財源	会費、運行寄付金
支出（経費）	コーディネーター人件費、会議費、ボランティア保険料、ガソリン代（ボラへ）、通信・印刷費ほか
行事など	「サポート室蘭」通信の発行、ボランティア会の開催
協力団体	市社協、市保健福祉部、市内透析施設

31番目★千葉県で「玄々堂」が誕生!!

12/1、千葉県君津市で退職者のボランティア団体と連携して「玄々堂げんげんどう君津腎友会通院支援の会」が発足しました。

中心になって立ち上げた千腎協副会長の齊藤さんは、全国規模の退職者ボランティア団体「ナルク」の千葉県代表を務めています。各地の送迎実施団体がボランティア確保に悩んでいると聞き、「ナルク」との連携を思いついたそうです。呼びかけから約1年で発足、現在「ナルク」会員20人がボランティア登録しており、利用希望者を募集中です（事務局は「ナルクかずさ」事務所に置いています）。

千葉県君津市には大きな透析施設が2ヶ所しかなく、隣接市の患者も含め、遠距離通院の苦労話が耐えない地域です。君津・木更津・富津の3市から通院患者が集まってくるので、マイカーボランティアが沢山必要ですが、既存のボランティア団体との連携の成果が期待されます。

来春めどに山形市で準備中

山形県腎友会では、NPOサポートセンターの協力を得て、通院支援ボランティア団体の立ち上げ準備中です。同センターから「患者団体だけでは難しい事業だから」とアドバイスを受け、多方面から実行委員を募りました。この夏から月1回準備会を開いています。

来春発足をめざしていますが、あまり気負わず、最初は細々と活動する！くらいの気持ちで準備を進めているそうです。

佐賀県で3県が交流「学び語り合う」

11/11に佐賀市内で、「ふれあい合同研修会」が開かれました。佐腎協の通院介護支援センター「ふれあい」の研修会に、福岡・長崎の事業所が加わり、3県の合同研修会となりました。参加者は、9事業所のスタッフと佐賀の利用者・ボランティアで合計約40名。

午前中は、佐賀からの活動報告の他、「さわやか」江頭会長による講演「ボランティア活動と介護保険」があり、午後はビンゴゲームを交えて参加者同士が交流を深めました。九州は「さわやか」を見学して立上げた事業所が多く「会」のしくみが似ています。ボラ数や活動規模は地域によって違いますが、日頃の苦労話を聞いたり、情報交換しながら

それぞれの活動にヒント

「さわやか」が周囲や活力を得たのではない年を過ごしたのでしょうか？

「すずらん」「ステップ」に車両助成決定!

●練馬区「すずらんの会」●

日本財団から10人乗りリフト車をもらえることになりました。リフト車を毎日運行するにはボランティアさんが足りないので、患者会員からリフト車専属ドライバーを募集中で、既に12人の申込みが来ています。

日本財団の車両助成は、今年から助成を受けた団体が車両代金の1割を負担しなくてはいけなくなりました。「すずらんの会」では、今年9月に練馬区から地域福祉活動助成金189万円の交付を受けることができたので、これを車両の1割負担分とパソコンのカラープリンタ購入費に充てました（カラープリンタで会報を印刷しています!）。

現在利用者18人・ボランティア25人で、送迎先は、保谷厚生病院・東海病院・高松病院の3ヶ所ですが、春からは利用者もどっと増えそうです。

●福岡市「ステップ福岡」●

日本財団から4人乗りのリフト車をもらえることになりました。交付決定を受けた団体の寄贈説明会（34団体出席）では、「ステップ」の活動紹介などをさせてもらい、参加者に透析通院のことを知ってもらう良い機会になったそうです。

福岡市では、介護タクシー（210円しか取

らない) に対する規制が厳しくなり、業者の撤退もしくは運賃有料化が予想されています。利用者がボランティア団体に移ってくる

かもしれないので、リフト車の運転ボラ募集はもちろん、マイカーボランティアさんも増えるよう募集していく予定です。

◆ ◇ ● 聞いて！聞かせて！みんなのつぶやき ◆ ◇ ●

実施団体から寄せられた「活動状況」を基に各地の事情を掲載します。読者の皆さんの反響をお待ちしています。今までの「つぶやきコーナー」も引き続き募集中です。

聞いて聞かせて！各地の事情

●板橋区「さくらの会」●

日本財団のリフト車を運行するようになってから、利用患者さんが急増しました。近くにある老人医療センターへの送迎依頼を受けるうちに、医療スタッフ経由で情報が拡がり、リフト車は月～土までフル稼働。

一方で、ボランティアさんは、地域との結びつきの強い配食サービスや利用者とのやりがいを実感できる障害児ボランティアなどに移っていく傾向があります。患者さんには「決まった時間に同じボランティアさんに来てほしい」という思いがあるようですが、渋滞の多い都内で、掛け持ちして送迎しているボランティアさんが多い現状では、希望に応えきれません。

●神戸市「ジャスミン」●

介護保険事業所から、「安くて車で迎えに来てくれる」ジャスミンを当てにして利用相談が来ます。業者からの申込みを受けると、「ボランティア」ということが理解されずタクシー代わりに使われてしまうので、利用者から直接申込みを受けることにしています。

将来的に「ジャスミン」がヘルパー派遣を行うことができれば、そういう問題も解消す

るかもしれませんが。

雪深い秋田と新潟、冬は充電

●秋田市「スワン」●

秋田市では、なかなかボランティアさんが集まりません。チラシを配ったりラジオで活動紹介されても反応無し。。先日、コーディネーターの古谷氏が新聞の取材を受けたところ、ボランティアさんが3名増えました。古谷さん曰く「地域性ってあるんでしょうか？」

12～3月は送迎休業。今まで活動の総点検をし、発展していく方策を探ります。

●小千谷市「ラ・クーダ」●

小千谷市では介護保険を利用できる患者さんは介護タクシーを使ってもらっていますが、利用限度額があるため毎回利用するのは難しい方もいます。この冬は1人だけ(週1回往復)送迎を続けることになりました。同じ病院の患者ボランティアが送迎を担当します。

冬季は、もし何かあったら活動できなくなるので活動を休止せざるを得ません。北海道など、もっと雪の多い地域では、どうやって活動しているのでしょうか？ 1・2月は基本的に休止、3月から再開します。



◆ ◇ ● 今回の添付資料 ◆ ◇ ●

① 九州陸運局・ボラ輸送にブレーキ? 介護保険との関係で厳しい見解が出されました。類似の情報が流れている地域がありましたら、情報提供をお願いします。

② 中古車販売情報 東京ハンディキャブ連絡会からの中古車販売情報です。

③ 名簿更新、31団体に 千葉県君津市の「玄々堂」を加え30団体から31団体になりました。

④ 「ふれあい大津 通信6号」 遅くなりましたが「ふれあい大津」から「通信6号」をいただいていた。福祉車両専属の運転手雇用など新たな展開がありました(次号でご紹介します)。